

第1章 事業の概要

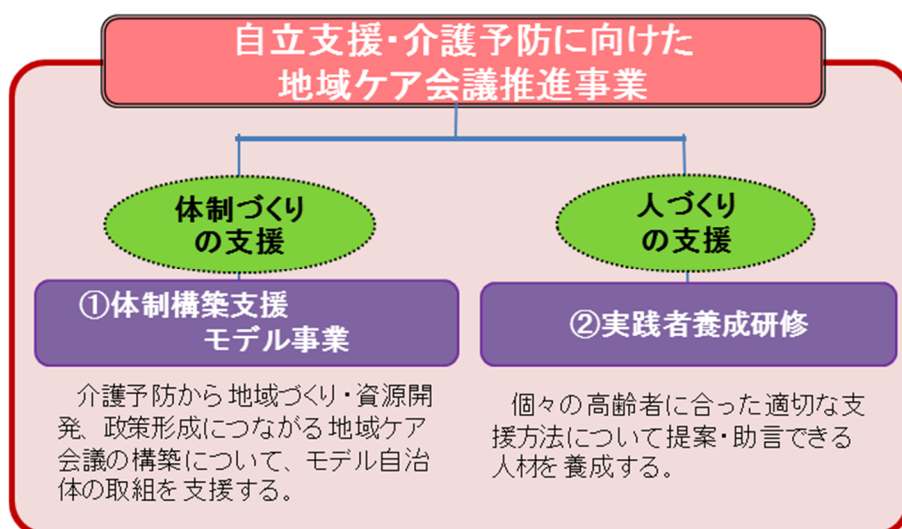
1 事業の背景と目的

地域ケア会議について、東京都では、平成25年度に設置した地域ケア会議推進部会のまとめにおいて、地域ケア会議における「自立支援」や「個別ケース検討」の考え方を整理した。

その後国は、一方で、要支援者を中心とした軽度者の増加傾向が顕著である現状においては、支援が困難とされる事例の検討だけでなく、自立支援・介護予防の観点から検討に取り組み、さらには、新たな資源開発や政策形成につながるような体制構築が必要であるとして、地域ケア会議における個別事例の検討を通じて、高齢者の課題解決を支援するとともに、介護支援専門員の自立支援に資するケアマネジメントの実践力向上を求めている。

しかし、軽度者を対象とした自立支援・介護予防の観点から実施するケア会議は新たな取組であり、都内において実施している区市町村が多いとは言えないのも事実である。

そこで、東京都では、会議の主催者の運営ノウハウや助言を行う専門職の養成などの実施体制の整備に向け、「体制づくりの支援」と「人づくりの支援」の両面から区市町村を支援するため、本事業を開始した。



2 事業の概要

(1) 自立支援・介護予防に向けた地域ケア会議体制構築支援モデル事業 (体制づくりの支援)

自立支援・介護予防に向けた地域ケア会議では、個々の高齢者の支援方法について提案・助言を行うことにとどまらず、地域づくり・資源開発、政策形成につながるような体制の構築が求められる。

そこで、東京都では、平成29年度から毎年、モデル自治体を選定し、下記の取組により体制構築を支援してきた。

実践会議による支援

有識者や地域ケア会議の実践者からなる会議を組織し、その知見を活かしながら、モデル自治体が保険者としての理念や計画、地域の実情を反映した地域ケア会議の体系を構築し、円滑に

会議を実施できるよう支援した。

アドバイザーの派遣

モデル自治体の希望に応じて「支援アドバイザー」を派遣し、自立支援・介護予防に向けた会議の運営について助言・指導を行った。

(2) 自立支援・介護予防に向けた地域ケア会議実践者養成研修(人づくりの支援)

高齢者の自立した日常生活の支援、介護予防、要介護状態等の軽減に向けた地域ケア会議を有効なものとするためには、幅広い視点から高齢者の生活課題とその背景にある要因を理解し、かつ、個人の尊厳を保持しながら、個々の状態に合った適切な支援方法について提案・助言できるような、多職種による連携が重要である。

このため、東京都では、(1)の自立支援・介護予防に向けた地域ケア会議体制構築支援モデル事業における検討と実践を踏まえ、地域ケア個別会議に参加し、適切な提案・助言が行える多様な職種の人材を養成することを目的として、下記の方を受講対象とした「自立支援・介護予防に向けた地域ケア会議実践者養成研修」を実施した。

【受講対象者】

地域ケア個別会議で司会経験(予定)のある区市町村地域ケア会議担当者、地域包括支援センター職員

地域ケア個別会議に助言者として出席経験(予定)があるリハビリテーション専門職、管理栄養士、歯科衛生士など

地域ケア個別会議に事例提供者として出席経験(予定)がある主任介護支援専門員など
その他、各区市町村による受講勧奨者

【参考:令和元年度 研修カリキュラム】

日程	科目	内容	時間	形態
1日目 (370分)	これからの介護 予防と地域ケア 個別会議の推 進	当該研修(全体及び各講義)の目的を確認する。東京の高齢者を取り巻く状況を踏まえ、都の第7期計画の方向性やこれからの介護予防の考え方、地域づくりによる介護予防について理解する。地域ケア個別会議が地域包括ケアシステム実現の有効なツールであること、また、軽度者を主とした高齢者のQOL向上や地域づくりのため、自立支援・介護予防に向けた地域ケア個別会議を推進する必要性について理解する。	45分	講義
1日目 (370分)	「自立」について考える	「自立」という言葉の解釈については、介護関係者の間でも考え方に違いがあり、自立支援をどう捉えるかが人によって異なるとすれば、介護の目的や方法論の違いにつながったり介護における優先順位や重視する事柄が異なることにもつながる。そこで、介護保険法とICFをもとに「自立」について学ぶ。	40分	講義
		専門職の関与により回復した当事者の情報を踏まえ、「自立」についてグループ討議を行う	60分	演習等

日程	科目	内容	時間	形態
1日目 (370分)	地域ケア会議の活用のあるり方	地域包括ケアを推進するためには、地域ケア会議をどのように活用すればよいかを理解する。そのうえで、自立支援・介護予防に向けた地域ケア個別会議を有効に活用するための運営のあるり方について学ぶ。	70分	講義
	地域ケア個別会議の実践事例	地域ケア個別会議は、地域の実情をふまえて実施されるものであり、保険者によって目的や参加者など、そのデザインは異なる。東京都におけるモデル事業を通して実践されてきた取り組みを紹介し、地域ケア個別会議構築までの過程を理解する。	40分	講義
	地域ケア個別会議における司会者の役割	自立支援・介護予防に向けた各地域ケア個別会議の開催前、開催中、開催後それぞれにおいて、司会者が行うべきことを理解する。中でも、会議開催中において、多様な参加者がそれぞれの専門性を活かして、高齢者の自立に向けた課題解決の方法に関する建設的な議論を促進するためのポイントを学ぶ。	60分	講義
	地域ケア個別会議における事例提供者の役割	介護支援専門員、地域包括支援センター職員が地域ケア個別会議に事例を提供するにあたって、事前準備、実際の会議場面の役割、会議後の役割を理解する。事例提供者として、事例の課題共有や解決のみに終始することなく、「その人らしさ」を意識した自立支援型(自立に資する)ケアマネジメントの大切さを理解する。	45分	講義
	地域ケア個別会議(模擬)に向けた事前説明	二日目の最後の科目である「地域ケア個別会議(模擬)」を円滑に実施するため事前の説明を行う	10分	講義
2日目 (370分)	地域ケア個別会議に参加するうえで共通認識を持つべきポイントの確認	地域ケア個別会議に参加する各専門職に求められる共通認識を持つべきポイントについて、本研修1日目の内容に基づき確認する。中でも、各専門職が行う専門的見地からの助言が、全人格的に捉えたサービス利用者への適切なサポートへと整理・活用され、かつ、生活環境である地域の課題把握が、その後のまちづくりへの働きかけや政策提言等へと展開するきっかけとなることを、参加者全員が意識することの必要性を確認する。	45分	講義
	地域ケア個別会議でのリハビリテーション専門職の役割	地域ケア個別会議に参加するリハビリテーション専門職が、対象者の自立支援・介護予防につながる適切な助言ができるように、地域ケア個別会議の目的やリハビリテーションの理念、多職種連携のあるり方等を理解する。医療系専門職として、疾病や障がいといった「心身機能・身体構造」に着目するのはもちろん、「活動」や「参加」を視野に入れ、生活環境の調整や地域の中で役割の創出、生きがいづくり、自己実現などにつながる助言ができるようにする。	90分	講義

日程	科目	内容	時間	形態
2日目 (370分)	地域ケア個別 会議での管理 栄養士の役割	健康寿命を延伸できる体づくりを栄養面からアドバイスできる能力、栄養・食事・料理・買い物における地区診断を行い、課題を抽出して解決策を提言できる能力を身につける。また、地域で活用できる栄養関連のリソースを把握し、個別の課題にあった助言に結びつける能力を習得し、地域ケア個別会議に参加する管理栄養士の役割を理解する。	35分	講義
	地域ケア個別 会議での歯科 衛生士の役割	口から食べる機能を維持し、低栄養や誤嚥性肺炎を予防することは、生活の質を維持向上するために欠かすことができない。地域ケア個別会議における歯科衛生士の役割を理解するとともに、助言者として適切な助言ができるようにする。	35分	講義
	地域ケア個別 会議(模擬)	事前に配付された事例から、本人や家族の問題(困りごと)や意向(生活への意欲を含む)、生活全般の解決すべき課題(ニーズ)などを読み取り、地域ケア個別会議に臨むための準備を行う 実際に、グループごとに役割を決め、地域ケア個別会議(模擬)を行う。終了後、グループごとに振り返りを行った後、全体発表、ファシリテーターからの講評を行う	165分	演習

3 事業の実績

(1) 自立支援・介護予防に向けた地域ケア会議体制構築支援モデル事業

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
モデル自治体	台東区 豊島区	町田市 西東京市	立川市 多摩市
実践会議 開催回数	6回()	7回()	4回

() 有識者による講演会等を含む。

(2) 自立支援・介護予防に向けた地域ケア会議実践者養成研修

	平成30年度	令和元年度
開催回数	4回	5回
研修修了者数	352名	428名